



伊豆の国市 議会だより

2022年 11月1日発行

No.66

編集

伊豆の国市議会だより特別委員会

〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340-1

☎055-948-1417 FAX055-948-2913

<http://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/>

9月定例会

常任委員会報告 2~3

一般質問 4~10

審議結果・賛否一覧 11

トピック・議会の動き 12

おうけつくん 北江間横穴群

北江間横穴群（国指定史跡）は7～8世紀にかけてつくられた横穴墓です。横穴は大北と大師山^{だいしやま}の2カ所あり、大師山には、後に北条義時^{よしかぎ}がお経を納めたという伝説があります。



総務産業建設委員会

伊豆の国市公共施設再配置計画審議会 条例の制定について

■この審議会を立ち上げ、令和4年度中に再配置計画の見直しを図るということなのか。

見直しをしていく過程で、調査、審議に時間がかかるかもしれないが、目標としては令和4年度中を考えている。

伊豆の国市簡易水道事業の設置等に関する条例の制定について

■エメラルドタウンが簡易水道に入っただち、上水道に移管されれば、この条例そのものは必要なくなるのか。

エメラルド簡易水道事業を上水道に取り組んだときには、この簡易水道条例を廃止するということになる。

伊豆の国市下水道条例の一部を改正する条例の制定について

■審議会の答申は累進制であったと聞いているが、行政側は従量制だと判断した。県内の状況を見れば、累進制であつても良いのではないか。

答申は、累進制を導入することが望ましいとなっているが、大量排水者の

多くは温泉旅館や飲食店等の事業者であるため、新型コロナウイルスのまん延防止等による経営状況への影響を考慮し、慎重に検討すべきであるという答申であつた。

そのため、累進制だと温泉旅館や飲食店等の事業者には負担が増えてしまうことから、従量制をそのままとした。ある程度新型コロナウイルスが収束した状況であれば、さらにもう一段踏み込んだ形で検討したいと考えている。

市営住宅の訴えの提起について

■市営住宅の連帯保証人の保証限度額について、市の保証限度額は。

民法改正を受けて、市営住宅の管理規則を改正しているため、その限度額を家賃の12カ月分と規定している。

令和3年度伊豆の国市一般会計歳入歳出決算の認定について

■移住定住促進事業954万8430円について、コロナ禍でのオンラインを使った政策の成果は。

オンライン相談の浸透により、いつでもどこからでも相談可能な体制が構築できた。また、直接対面形式も非常に重要なので、県と協調して効果が高

まるような方策を進めていきたい。

■誘客対策事業補助金300万円の内容と効果は。

伊豆長岡温泉の旅館組合独自のOTA(オンライン・トラベル・エージェンツ)事業として、「楽天」、「じゃらん」の2社を使ってメルマガやクーポンの発行を行った。自主財源を合わせて326万5千円。

宿泊者は1171人が利用し、客単価は平均1万7千円から2万4千円程度。



■プレミアム付商品券事業についての電子マネーのポイントバック、一般向けの商品券、生活困窮者向けの商品券が3つあり、それぞれの売上げ結果は。

電子決済(PayPay)は、経費として1億円弱ぐらい使用している。実際の効果は、5倍の5億円の効果があつたと結果が出ている。商品券は2種類あり、販売した冊数は402冊。

売上金額は321万6千円。生活困窮者向けの冊数は3724冊を配付した。

■防犯灯維持管理費1220万952円の整備状況は。令和3年度で市内のLED化は終わったのか。

市が把握している蛍光管に関しては、これで一応区切りがついた。ただ、もれているものもあるので、発見次第、蛍光管からLEDに切り替えていく。

令和3年度伊豆の国市水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

■料金回収率が8・11%減少し、100%切った理由は。また、100%を切った状態が続くと、水道料金の値上げとなるのか。

コロナ禍の問題もあり、大きな旅館が倒産したというような事例があつた。その部分で前年度より減つたと認識している。水道料金の改定については、総合的な経営状況を判断し、料金改定期を慎重に検討していきたい。

令和3年度伊豆の国市下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について

■一時借入金理由は。

大規模な官民連携事業は、半分が補助金で半分が起債となり、それらが入ってくるのは3月末になる。工事費を支払うことができないため、一時借入して事業を行っている。

福祉文教環境委員会

令和3年度伊豆の国市一般会計歳入歳出決算の認定について

■最終処分場の維持管理について、長岡最終処分場の借地料が約59万円、同葦山が約19万円、同大仁が489万8千円だが、何年まで使うのか。

また、借地料を毎年払うのではなく、購入の検討はされてこなかったのか。

長岡最終処分場はすでに閉鎖しており、2年間の経過観察後に市で買い上げる。葦山は今年度閉鎖し、2年間の経過観察後、所有者に返還する。大仁は令和12年に閉鎖予定であり、その時期まで支払う。大仁第2は今年3月31日に返却した。

旧町時代から最終処分場については借地という形で確保契約しているが、経済性や効率性を考えて、今後、方針を決定していきたい。

■長寿祝い事業について、敬老会の実施が無かった令和3年度は記念品分として一人700円の市補助があった。敬老会出席の場合は一人2500円で、差があるが、令和3年度は開催されなかった区もあり、区の選択制になると全員にいきわたらない。検討は。

敬老会実施の場合は、一人2500円で3割弱の参加者を予算設定している。コロナ禍で開催できなくなり、対象者が100%になるように逆算して700円とした。金額に差があり、区長への説明会でも言われている。来年度予算に向けて検討していきたい。

区の選択制についても地区には負担をかけるが、お願いできるような体制を作っていく。

■市税徴収事務事業について、滞納整理機構の効果と、未納者に対する収納状況はどうか。

静岡地方税滞納整理機構に20件移管し、3164万5千円の徴収依頼をした。その内1443万5千円の徴収実績があった。

■業務の効率化支援システムとして、公立保育園・幼稚園でC・D・M・O・N（コドモン）を導入しているが、効果はどうか。

欠席連絡や健康観察が便利になった。職員の週案月案等作成時にとても便利になった。業務負担軽減システムは園職員と保護者に高評価であるが、今まで通りの手書きのお便りが良かったとの意見もあった。

■地域学校協働活動推進事業（238

万8046円）はどういう運営をしていて、効果についてはどうか。

大仁北小をモデル校として、昨年度より6小学校で協働本部を設置した。通学時の安全確保が共通の課題であることからプロジェクトチームを結成、通学路の危険箇所を見ていくことにした。地域住民が自主的にやり始めてくれており、大変ありがたい。3中学校についても立ち上げていく方針である。

令和3年度伊豆の国市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

■前年度よりも賦課限度額が上がっているのに、保険税の前年対比では3200万円くらい減額しているのはどういう状況なのか。

現年課税分の収納率が下がっているのではなく、団塊の世代が後期高齢者医療制度に移行し、被保険者が減っていることが主な原因であると考えている。

令和3年度伊豆の国市介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について

■介護認定者数は増えているが、給付状況はどうか。また、被保険者のうち、普通徴収の割合はどの位か。

給付費は急激に増えており、今年度は予算の段階で1億1375万8千円の基金の取り崩しを見込んでいる。計画と比べると、居宅介護サービス給付費は5590件で約1億8600万円、施設介護サービス給付費は592件で716万円上回っている。居宅介護予防サービス給付費は350件で約940万円下回っている。

普通徴収は4月1日現在で1万7628人のうち、3069人、17.4%。



長岡幼稚園